

## 第 58 回シェイクスピア学会研究発表ならびにセミナーメンバー募集要項

第 58 回シェイクスピア学会は、2019 年 10 月 5 日(土)、6 日(日)の 2 日間にわたり、鹿児島国際大学(鹿児島県鹿児島市)にて開催されます。つきましては、下記により研究発表ならびにセミナーメンバーを募集いたします。応募規定をご覧のうえ、奮ってご応募ください。

### 研究発表

**【応募要項】** (締め切り日にご注意ください。応募方法は E メールです。)

1. 一般研究とし、テーマを問いません。ただし、未発表のものに限ります。
2. 応募者は研究発表概略(和文 2,000~4,000 字、または英文 800~1,500 語)を、WORD またはリッチテキスト形式のファイル (A4 用紙縦設定の横書) にして E メールに添付してください。
3. 学会プログラム資料原稿用に、研究発表要旨(和文 400 字、または英文 150 語以内)を、WORD またはリッチテキスト形式のファイル (A4 用紙縦設定の横書) にして E メールに添付してください。
4. 簡単な経歴書を、WORD またはリッチテキスト形式のファイル (A4 用紙縦設定の横書) にして E メールに添付してください。
5. 応募者の氏名、所属・肩書き、連絡先住所・電話番号・電子メールアドレスを E メール本文に明記し、上記 2. 「発表概略」 3. 「要旨」 4. 「経歴書」 の計 3 点のファイルを添付して、日本シェイクスピア協会 (学会担当) 宛に送信してください。なお、以上 2~4 の書類はそれぞれ独立のファイルとして添付してください。
6. 応募 Eメールの送信先を日本シェイクスピア協会(学会担当) [ssj-conference@nifty.com](mailto:ssj-conference@nifty.com) とし、件名に「研究発表応募」と明記してください。
7. 応募原稿ファイルは返却いたしませんのでコピーをお残してください。
8. 締め切りは **2019 年 6 月 15 日 (土) 正午** です。
9. 審査結果は 7 月中旬に応募者あてに通知いたします。
10. 日本シェイクスピア協会会員であること (= 当該年度の会費納入者) が応募の資格です。

### セミナー

学会 2 日目に以下の 3 つのセミナーを企画しました。

**【応募要項】** (締め切り日にご注意下さい。応募方法は E メールです。)

1. 下記セミナーのうち 1 つのみ応募できます(応募は会員に限ります)。
2. ご希望のセミナーテーマを明記のうえ、ご発言の「主旨」を、日本語 200 字以内 (または英語

100～150 語) にまとめ、WORD またはリッチテキスト形式のファイル (A4 用紙縦設定の横書) にして E メールに添付してください。また「氏名・所属・肩書き・連絡先住所・電話番号・E メールアドレス」を E メール本文に明記してください。

3. 応募 Eメールの送信先を日本シェイクスピア協会(学会担当) [ssj-conference@nifty.com](mailto:ssj-conference@nifty.com) とし、件名に「セミナーメンバー応募」と明記してください。
4. 応募締切は **2019年5月7日(火)正午**です。
5. 各セミナーとも、コーディネイターと協議のうえ、メンバーの数を限ることがあります (コーディネイターは会員外のゲストを1名入れることができます)
6. 応募の採否については6月下旬までに本人宛に通知します。
7. セミナーメンバーに決定した方は、研究発表に重ねて応募することはできませんので、ご注意ください。

なお、大学院生と若手研究者のための「シェイクスピア・ワークショップ」は2016年度の第11回をもって終了し、2017年度よりシェイクスピア学会セミナーに統合されました。

新しいセミナーのメンバー募集は、学生・若手を含め、より広く会員に対して開かれたものとなります。修士課程の大学院生も含めて、学生会員の皆様にもぜひ奮ってご応募いただきたく存じます。

各セミナーの ①コーディネイター、②テーマ、③指針は次の通りです。

### 《セミナー1》

- ① 五十嵐 博久氏 (東洋大学教授)
- ② シェイクスピアと法 (仮題)
- ③ シェイクスピアの時代、法やその解釈、また法による裁きのプロセスが広く民衆の関心を集め、慣習法の理念に基づく裁判の方法やローマの弁論術に由来する真理究明の方法や修辞学が、文学や当時の思考様式に影響を与えたことが知られている。欧米における最近の文学研究では、初期近代の「法」・「言説」・「権力」の関係について、法学や文学といった既存の専門的枠組みに固執しない超領域的視点から捉え直そうとする動きがある。学会では「法とシェイクスピア」をテーマとするセミナーが数多く企画され、その成果が矢継ぎ早に出版されている。憲法とかかわる議論が国民的関心事である日本においてシェイクスピア研究に従事する私達も、欧米のこうした動向に対して無関心ではいられない。そこで、本セミナーでは、シェイクスピアやその同時代のテキストを広く「法」との関係性から分析し、再評価する多様な論考を募集して、このテーマについて考察してみたい。

## 《セミナー2》

- ① 山本 真司氏（青山学院大学准教授）
- ② シェイクスピアと同時代（前後）の宗教と視覚文化（仮題）
- ③ 「書籍印刷なくして宗教改革なし」と言われるが、書籍同様にビラやパンフレットの活用は有効な普及手段となり、特に絵画や木版画を使って一般民衆に教えを分かりやすく伝えることは急務であった。ヨーロッパ中世社会から絶対主義的な主権国家に移行する過渡期において宗教改革が果たした社会的役割を念頭におきながら、初期近代英文学・演劇における宗教と視覚文化の関係を考察することが本セミナーの目的である。自然哲学の分野では視覚的観察に重点がおかれる一方、精神的な事柄に関し宗教改革は視覚イメージの価値に対して問題を投げかけ続けた。1580年頃には初期の iconoclasm 運動から転じて iconophobia の精神風土が定着しつつあった(Patrick Collinson)が、例えば『ヴェニス商人』でポーシャの絵姿を初めて目にしたバッサーニオの揺れる審美的倫理観はどのように説明できるのか。視覚芸術と極めて親和性の高い詩や劇を手始めに、シェイクスピア前後の時代にも目配りしつつ、初期近代英国の様々な芸術文化媒体がこの神学的、認識論的、美意識的変革期において人々にどのような視空間や視覚経験を提供しようとしていたかを明らかにしたい。

## 《セミナー3》

- ① 丹羽 佐紀氏（鹿児島大学准教授）
- ② 「見る／観る」ことの多様性について —シェイクスピア劇を通して考える
- ③ シェイクスピア劇において、「見る・観る」という行為は様々な意味を内包し、登場人物や観客、あらずし展開に大きく関わってきます。例えば一方で、『夏の夜の夢』に登場するヘレナは「恋は目でなく心で見ると語り、『マクベス』において、王の暗殺を企てるマクベスの目には短剣が見えます。他方、観客の目の前で繰り広げられる劇の場面が、『夏の夜の夢』でパックが言うところの ‘we shadows’ であるなら、観客が観ている影とは何でしょうか？恋愛やキューピッドに絡む台詞、異性装や嫉妬がもたらす誤解や妄想、さらに上演作品に対する観客側の反応など、セミナーではシェイクスピアの様々な劇作品を取り上げながら、目の前にある（またはない）ものを見る・観るとはどういうことなのか、議論します。テキストに内在する「見る」という行為だけでなく、上演作品を「観る」という行為も視野に入れ、幅広く議論を展開したいと考えています。

本セミナーは従来のシェイクスピア・ワークショップに代わるものとして、大学院生(修士課程を含む)及び若手研究者の方々の参加を特にお待ちしております。